

プログラムの概要

呼吸・循環を中心とした生体変化が急激であり、対処もまた急を要する周術期麻酔管理を実際に担当することにより、患者の病態の急激な変化に対応した的確な診断と処置能力を高めることを目的とする。また、長期間麻酔科を選択することにより、難度の高い麻酔管理・ペインクリニック・緩和医療についても学ぶことが可能となる。

アピールポイント

新棟手術室への移転に伴い、最新の麻酔器・生体情報モニター・超音波診断機器が配備され、最新医療機器を用いた研修が可能。特に、超音波エコーを用いた術中診断(3D経食道心エコー)や手技(中心静脈穿刺、神経ブロック)を積極的に取り入れているのが特長である。また、緩和ケアにも専任のスタッフを配置して力を入れている。必須科としての期間では気道確保・呼吸管理・循環管理などの研修に重点を置くが、選択科としては硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔などの手技に加え、超音波エコー・緩和医療についても学ぶことが可能となる。



生体情報モニターと電子麻酔記録をフル装備
新棟手術室では更に最新医療機器を導入



将来必要な手技を習得可能



医局員・研修医・看護師・MEの有志による課外活動を開催しているので、是非参加してみてください。

具体的な研修内容

実際の麻酔診療に指導医と共に直接従事(1日で1~3症例)してもらうことにより、呼吸・循環などの全身管理(全科志望者に必要)、麻酔技術(外科系志望者にとって有利)、疼痛管理に関する技術を習得してもらう。具体的に学べる手技としては、気管挿管・脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・腕神経叢ブロック・閉鎖神経ブロック・動脈ライン挿入・中心静脈カテーテル挿入などがある。また、最先端の麻酔科学を学ぶために、研修期間中に開催される麻酔関連学会へも積極的に参加してもらっている。

曜日	時間	内容
月~金	7:00~7:45	担当患者の麻酔準備
	7:45~8:25	カンファレンス 当日麻酔患者についての検討 前日麻酔管理症例の検討 抄読会など
	8:25~	担当患者の麻酔管理 術前診察・術後診察
水	17:30~	勉強会
金	17:30~	翌週の重症症例の検討会
土		お休み
日・祝		お休み

期間	研修内容
1週目	オリエンテーション・麻酔準備 上級医について麻酔の流れを把握
2~3週目	実際に麻酔を担当し始める 気管挿管・静脈/動脈ライン確保
4~5週目	リスクの低い麻酔を一人で担当 脊髄くも膜下麻酔
6~8週目	リスクが中等度の麻酔を担当 腰部硬膜外麻酔
選択科としての研修	難易度の高い麻酔(開胸手術など) 胸部硬膜外麻酔 超音波エコーガイド下ブロック 中心静脈カテーテル挿入 緩和ケア研修 ペインクリニック